

令和元年度 宮崎県立延岡星雲高等学校 学校評価

<p>学校経営ビジョン</p>	<p>【教育目標】生き抜く力を身につけた、新しい風を呼び起こす創造者として社会に貢献できる人材を育成する。 【経営ビジョン】地域に根ざす普通科高校として、生徒一人ひとりを大切に、豊かな人間性を育み、地域や保護者に信頼される学校づくりを推進する。</p>		<p>学校関係者評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は、指標等を基にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。</p>	
<p>本年度の重点目標</p>	<p>1 『学力向上・進路実現』 ○家庭学習の確立と個に応じた指導を充実させ、キャリア教育を推進することで学力が向上し進路実現へとつながる。 2 『人間力の育成』 ○基礎力やコミュニケーション能力を醸成することで、豊かな人間性と社会を生き抜く力が身に付く。 3 『信頼と連携』 ○徹底したリスクマネジメントと迅速な対応により校内外の安全を確保しながら、保護者や地域への学校情報を積極的に発信することで、相互理解と連携が深まる。</p>		<p>※ 自己評価、学校関係者評価とも、A～Dの4段階評価とする。 A：期待以上 B：ほぼ期待通り C：やや期待を下回る D：改善を要する</p>	
<p>重点目標</p>	<p>評価項目</p>	<p>取組内容</p>	<p>自己評価 成果と課題・改善策</p>	<p>学校関係者評価 評価・具体的意見</p>
<p>1 『学力向上・進路実現』 ○家庭学習の確立と個に応じた指導を充実させ、キャリア教育を推進することで学力が向上し進路実現へとつながる。</p>	<p>① 学習(授業)改善</p>	<p>大学入試改革や高校教育改革への対応を踏まえながら、「主体的・対話的で深い学び」の実践を目指す。</p>	<p>一昨年度学校関係者評価において「生徒自らが考えたり、思いや意見を述べたりする」活動や「個々の生きる力へとつながる」指導を求める意見を頂戴したことをきっかけに、昨年度から相互授業参観の記録用紙を変え、生徒の学習感を共有し改善すること及び各教科の特性や授業内容に応じた「主体的・対話的で深い学び」の考え方を共有できるように工夫してきた。特に今回は2回目の相互授業参観において、教科内で授業改善に向けたテーマ設定を行った上で代表者1名が授業を実施し、全員で観てから協議する形を取るようになったことにより、各教科でもつ課題が明確になり、次につながる取り組みになったと言える。今後は各教科のテーマを公開するなど、教科外の職員も積極的に参観しやすい雰囲気作りをしていきたいと考えている。</p>	<p>B</p> <p>○「学力向上・進路実現」という普通科系高校の課題に対し延岡高校との違いを前面に押し出し朝課外を廃止するも、教師自ら授業改善や講座選択制など生徒の学習意欲を高める取組、その基盤となる進路講演会、進路ガイダンス、ミライ学などのキャリア教育の取組は大いに評価できる。</p> <p>○学力向上は、授業であり、教師一人一人が授業改善の必要性を感じ、組織として授業改善を進めていることが素晴らしく、その成果が表れていると感じた。</p>
<p>2 『人間力の育成』 ○基礎力やコミュニケーション能力を醸成することで、豊かな人間性と社会を生き抜く力が身に付く。</p>	<p>② 学力向上</p>	<p>個に応じた指導の充実と家庭学習の確立を図ることで、学力の向上を目指す。</p>	<p>通常の授業の改善・充実に加えて、土曜講座・模擬試験を通して学力向上を図っている。3年生においては、講座選択制の夕課外を実施し、小論文指導や面接指導などは全教職員で指導にあたる実践している。模擬試験に関しては、分析を行いそれに続く授業へのフィードバック及び次の模擬試験への対策、大学別模試の実施など進学指導を充実に努めている。但し、目に見えて学力向上が達成できている箇所が少ないため、今後のよりいっそうの取組の充実が必要である。</p>	<p>B</p> <p>○「学び」が変わるとして、朝課外の廃止、45分授業、星雲プログラム等、具体的な改革を進めており、充実した学校生活を送るための「新しき風」が起きている感じる。やらされて学習から、自らやる学習として家庭学習の確立を図っており、主体的な学習の取組が良い方向に向かっている。さらなる充実を期待する。</p> <p>○星雲高校の特色の一つがキャリア教育であろうと感じる。一人一人の自己実現を図るための星雲高校ならではのキャリア教育が進められ、進学だけでなく、就職に向けた取組は大変ありがたい。</p>
<p>3 『信頼と連携』 ○徹底したリスクマネジメントと迅速な対応により校内外の安全を確保しながら、保護者や地域への学校情報を積極的に発信することで、相互理解と連携が深まる。</p>	<p>③ キャリア教育</p>	<p>進路設計の早期確立と適切な指導により、進路保障と社会貢献への意欲向上を図る。</p>	<p>すべての学年において進路講演会を実施し進路意識の高揚を図った。また、1年生・2年生に対して全30講座以上の中から興味関心に応じて選択して、大学や専門学校の方の講座を受講する進路ガイダンスを実施した。3年生に対しては多くの大学・専門学校に来校していただき、体育館にてブース形式の説明会を実施した。1年生普通科対象の「ミライ学」(＝九州保健福祉大学における体験授業)を夏季講座中に実施した。これらを通して1年生は2年生における文理選択、2年生は3年生におけるコース登録・進路志望の構築、3年生は受験校の決定に役立てることができていることを期待している。</p>	<p>B</p> <p>○先生方におかれましては、学生達ひとりひとりが進路に向けていかにやる気を起こし、興味をもって取り組んでくれるか、という事に試行錯誤しながら、授業内容だったり、授業の体制そのものを工夫しながら、頑張っておられる姿がよくわかります。でも、評価の中に「目に見えて学力向上が達成できている箇所が少ない……」とありますが、早々に結果が出るものではないと思います。先生方のやられている姿勢が子ども達にはきっと伝わっていると思いますので、先生方も意欲を持ち続けて頑張ってくださいと思います。情報や誘惑の多いこの時代に地道な学習に目を向けさせる事は容易な事ではありませんが、学生ひとりひとりが自分の進路に真剣に向き合う事が出来れば、先生方の思いも伝わると思います。</p>
<p>2 『人間力の育成』 ○基礎力やコミュニケーション能力を醸成することで、豊かな人間性と社会を生き抜く力が身に付く。</p>	<p>① 生徒指導の推進</p>	<p>「基本力」「自己管理能力」「コミュニケーション能力」を身につけさせ、素直でさわやかな生徒を育成する。</p>	<p>挨拶が少し良くなり、学校に活気が出て来た。継続して交通ルールマナーの遵守の為、手立てを今後も工夫することが必要。今年度は例年と比べて問題行動が少なかったが最後に数件発生した。朝の登校時間に余裕が出たせいか、登校時に元気がある生徒が多くなった。特定の生徒が遅れてくるのは自分で時間を管理出来ていないので、当たり前前を当たり前前に出来るようにすることが必要である。スマートフォンの普及により、利用方法に問題ある生徒が多い。また、今後は学校としてもその扱い方についても検討する必要がある。</p>	<p>B</p> <p>○生徒指導や人権・道徳・特別支援教育の観点ではなかなか外部から評価しづらい面があるが、十分な取組はできているものと思います。</p> <p>○部活動については、伝統的に名声の高い部活動はさすがですが、その他の部活動においても、その活動が競技技術の向上にとどまらず個々の生徒のよりよき成長につながっていくことを望みます。働き方改革の流れで、水曜日の完全休養日が徹底しているのは時代の流れとはいえ素晴らしい。教師も家庭生活や趣味の伸長、自己研鑽の時間的余裕や教員に足りないと言われる社会貢献等に少しでも目を向けて欲しい。</p>
<p>3 『信頼と連携』 ○徹底したリスクマネジメントと迅速な対応により校内外の安全を確保しながら、保護者や地域への学校情報を積極的に発信することで、相互理解と連携が深まる。</p>	<p>② 人権・道徳・特別支援教育の充実</p>	<p>生徒理解・情報共有・統一指導により、いじめや2次障がい防止と対応に努める。</p>	<p>保健・生徒支援部会での、生徒の情報共有により早期の問題解決の糸口を見つけることに全力を注いだ。また、リクエスト相談は学期1回を目安に定期的実施でき、悩みや不安に対応できたと感じた。それは、いじめなどの防止にも役立ち効果が高いと思われる。職員向けに、生徒対応の研修や、通級に関する研修も行い、より丁寧で親切的な生徒理解を全職員行うことができる学校にすべく努力している。しかしながら、不登校やいじめに近い事案も時々発生し、その都度適切な対応を取れるかが鍵であるが、完全とは言い難く今後の一層の努力が必要である。</p>	<p>B</p> <p>○不登校の生徒が「0」と同っており、生徒一人一人に目を向けた指導・支援が成果を上げ、学校生活が充実していると言える。朝の時間に余裕ができ、登校時に元気がある生徒が多くなったことも活気ある学校づくりにつながっており、成果の一つと言える。</p> <p>○スマートフォンの活用により問題が気になり得る。スマートフォンだけでなく、望ましいメディアとの関わりを自己管理能力の育成とともに進めていきたい。</p>
<p>3 『信頼と連携』 ○徹底したリスクマネジメントと迅速な対応により校内外の安全を確保しながら、保護者や地域への学校情報を積極的に発信することで、相互理解と連携が深まる。</p>	<p>③ 部活動の推進と諸活動への積極的参加</p>	<p>チャレンジ精神を養い、自尊感情を育てながら人間力の向上を図る。</p>	<p>部活動の加入率は例年通りで非常に高い。各々がそれぞれの目標に向けて積極的に活動している姿が多々見られる。特に、今年も放送部が全国大会出場、ラグビー部が全国大会予選で準優勝の成績を残したことが学校に勇気と元気を与えてくれた。今年度度から始まった星雲プログラム、水曜日部活動完全休養日との連携を検証し、改善と内容の充実を図りたい。</p>	<p>B</p> <p>○部活動所属男子89%、女子73%と高く、それぞれのクラブが目標に向かって取り組んでいることが生徒の活動の姿から伺える。</p> <p>○学生達の元気(挨拶)だったり、活気が出て来たことは本当に良い学校作りのベースだと思っています。学生達ひとりひとりが、ルールやマナーの必要性を理解できているかが問題であると思います。評価の中に「当たり前前を当たり前前に出来るようにすること……」とありますが、高校教育の場だけでなく家庭の中における「しつけ」にも大きな役割があると思いますが、それが出来ていない事が現実のようです。放送部やラグビー部の活躍は全校生徒にやる気や勇気を与えてくれたでしょう。</p>
<p>3 『信頼と連携』 ○徹底したリスクマネジメントと迅速な対応により校内外の安全を確保しながら、保護者や地域への学校情報を積極的に発信することで、相互理解と連携が深まる。</p>	<p>① 広報活動の充実</p>	<p>教育情報を効果的・積極的に発信し、学校理解と協力体制の推進を図る。</p>	<p>学校説明会や随時申し込みのある学校見学等には例年同様100%対応した。特に学校説明会においては本校の魅力をさらにアピールするため、今年度は1学年主任の協力も得ながら直接説明をする機会を増やした。広報活動を充実させ、募集に効果があがるための具体的な取り組みとしては、特に学校案内パンフレットのレイアウトの工夫で、分量は例年の3分の2にコンパクトにまとめつつ、普通科とフロンティア科を対比したり、生徒の1日に密着したスケジュール紹介など生徒目線で見やすい形にした。昨年度学校ホームページのリニューアルオープンを行ったが、その改善については数年来の懸案事項であり、内容の充実とともに運営の在り方について今後も検討していく必要がある。</p>	<p>B</p> <p>○「信頼と連携」の視点は今後ますます重要になると思われます。学校からの視点と地域社会からの視点とのずれをまったく無くすることはできなくても、意識し続けることが必要と考えます。避難訓練も次なる工夫を考えておられますが、義務制でも小学生と中学生と一緒に避難する訓練や、地域住民が避難してきたときのマニュアルなど考えるべきことも多くなっています。ある中学校は「認知症サポーター養成講座」を3年生に受講させて地域社会と自分とのかわかりを学習させています。広報で公民館長の協力もあるようですから、そのような外部と連携する視点をさらに深化させて高校生が地域に何が出来るかを発信できると素晴らしいと思います。</p>
<p>3 『信頼と連携』 ○徹底したリスクマネジメントと迅速な対応により校内外の安全を確保しながら、保護者や地域への学校情報を積極的に発信することで、相互理解と連携が深まる。</p>	<p>② リスクマネジメントと対応</p>	<p>安全管理と危機的状況の未然防止を徹底し、安全で安心な学校生活を保障する。</p>	<p>本年度2回実施した避難訓練では、緊急事態の場面想定をより具体化し、避難経路を見直したが、実際の被災場面に生かせる避難のあり方、初期消火の方法については、学校全体の検討が必要と思われた。訓練そのものについては、生徒職員ともに緊張感をもって訓練に臨む姿勢がみられたが、さらに緊迫した場面を作り出すことは可能だった。今後は、職員の意識をさらに高め、“職員による避難誘導訓練”として職員一人ひとりの臨機応変な対応力を高める計画を立てるとともに、抜き打ちや避難経路の一部閉鎖、地域住民との共同訓練などを行うことで、実際の被災場面に対応する力を養う機会としたい。</p>	<p>B</p> <p>○新しい風を保護者、地域に知ってもらうためにも、ホームページのリニューアルはその成果を上げている。大変分かり易くなっている。星雲高校のよさをさらに保護者、地域に知らせていただきたい。</p> <p>○災害・緊急時の避難訓練をより実際に近い状況で実施することで教職員、生徒の意識を高めることができている。今後、さらに、地域防災として地域と連携を図った取り組みを進めていただき、地域との連携強化につながることを期待する。</p> <p>○保護者、公民館長等の協力を得て、教育活動が進められ、地域の学校として信頼関係が築かれており、さらなる発展を願う。</p>
<p>3 『信頼と連携』 ○徹底したリスクマネジメントと迅速な対応により校内外の安全を確保しながら、保護者や地域への学校情報を積極的に発信することで、相互理解と連携が深まる。</p>	<p>③ 連携強化</p>	<p>保護者や地域との連携を深め、三者が一体となった教育活動を推進する。</p>	<p>PTA新聞の年2回の発行により、学校の情報を保護者へ伝達した。また、9月には学校近辺の3名の公民館長の協力を頂きPTA新聞の紹介、文化祭案内を行った。8月下旬には校内奉仕活動により保護者、教員の相互理解を充実させた。また、3年生の入魂式で生徒の学習意欲の喚起にもつとめてきた。保護者と学校の情報交換会は充実し、信頼関係を構築している。このように、保護者との連携を密接にする取り組みは十分である。報道機関に依頼して学校行事の報道を行った。</p>	<p>B</p> <p>○広報活動として、学校説明会で魅力あるアピールが出来た事は良かったのではないのでしょうか！中学生においては高校説明会を聞いて進路を変えていく親子もいます。(子どもの数が減少している中、学生を確保する事が難しい状況である上に将来に向けて何の希望も持たない、無関心の子どもが増えていると聞きます)保護者と学校の先生方が信頼関係を構築されていれば、素晴らしい学校に更に発展されることでしょう。</p>